

会 長 あ い さ つ

宮崎県校長会 会長 外山 保宏

令和8年4月17日、宮崎県校長会研修会・総会においてご承認をいただきました宮崎市立東大宮小学校長の外山 保宏です。どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年4月1日付教職員人事異動により、小学校35名、中学校22名、計57名の先生方が新たに校長となりました。また、県教委からは、小学校9名、中学校12名、計21名の方が転入されました。この度の校長就任を心よりお喜び申し上げます。これまでに培ってこられた経験と力量をもとに、新たな感覚で学校の経営にご尽力くださいますようご期待申し上げます。

さて、令和7年6月に「公立の義務教育諸学校等の教育職員に関する特別措置法等の一部改正法」が参議院で可決・成立され、教育調整額が2026年から2031年までに4%から10%へと、段階的に引き上げられることとなりました。およそ50年ぶりの改正は、全国の多くの先輩方による、長年にわたる粘り強い取組の成果であると考えます。

また、令和7年9月に中央教育審議会教育課程企画特別部会において「論点整理」が取りまとめられ、これを期に次期学習指導要領の改訂に向けた検討が進められています。

「論点整理」では、検討の基盤となる考え方として、「主体的・対話的な学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」が示されています。多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするために、総合的な勤務環境整備とも相まって審議されることが提起されています。今後も、教員の処遇改善にとどまらず、学校における働き方改革の実現や、学校の指導・運営体制の充実など、教育環境全体の整備が一層求められます。私たち現場の声を、これからもしっかりと国・県に届けていくことが大切であると考えます。

一方で、学力向上をはじめ、いじめや不登校、SNSトラブル、特別支援教育への対応、ヤングケアラー等、学校が対応する課題はより複雑化・困難化しています。また、保護者等からの多様な要求もあり、その対応に苦心している校長も少なくありません。さらに、公立学校教員採用選考試験の倍率低下に見られる人材確保や講師確保に苦慮している現状も大きな課題です。

このような課題に対しまして、私たちは、今まで以上に、校長同士の連帯感、結束力を強化する必要があります。情報交換や相談ができ、助けあえる仲間がいる校長会。存在意義がある校長会。そのような校長会でありたいと願っています。校長先生方が、自分一人で問題を抱え込むことなく、県内321名の会員の皆様とともに、創意と英知を結集させ、組織力を発揮して課題解決につなげましょう。

校長先生方お一人お一人の後ろに、市町村校長会や支会校長会があり、県校長会があることを感じられるよう、全力で取り組んでまいります。どうぞ、校長先生方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。